

「2025年度ベトナム国家大学ハノイ校サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学人間・環境学研究科 修士課程1年 柯 長源

今回の学習成果は主に3つある。

一つ目は、現地の人々から日常生活や社会の課題について直接話を聞くことができ、書物やニュースだけでは得られないリアルな経験を通して国際理解を深めたことである。

二つ目は、ベトナム人との交流を通じて、中国の国際的影響力の拡大や日本の生活様式の特異性を実感し、母国と日本のことを外から見直すことができたことである。

三つ目は、現地の人との交流で、人々の絆を大切にする姿勢に触れ、人間関係における温かさや助け合いの精神を学ぶことができたことである。

海外経験として、私は外国人として日本で5年間留学しており、長期に渡る海外滞在経験を持っている。今回ベトナムに訪れたのは2回目であり、前回訪問した際よりも現地の変化や文化の深まりをより強く感じることもできた。

今回の派遣は2週間の予定で、前半はベトナム国家大学ハノイ校外国語大学で、後半はベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学で交流をした。主な内容は、共同発表の準備・現地語学習・授業参加であった。途中に2回の実地研修もあり、世界遺産のTràng Anとベトナム国家歴史文化遺跡のĐường Lâm村を見学した。最後に「日越中の仏壇文化」をテーマに共同発表を行った。

今回の研修の進路に与えた影響は主に3点ある。

第一に、現地語の習得をより重視するようになったことである。首都ハノイでは英語が殆ど通じず、現地で働くには現地語の習得が不可欠だと身をもって感じ、長期留学を真剣に考えるようになった。

第二に、将来ベトナムでの仕事希望が一層確かなものになったことである。二年前の訪問時と比べ、電車路線の新設や地下鉄の開通予定、更に翌年からハノイ市中心部でガソリンバイク通行の全面禁止など、ベトナムの急速な発展ぶりを肌で感じた。今後のベトナムの経済発展に伴い、インフラ整備やハイテクノロジー、サービス分野の需要が更に高まると予想され、ベトナムに精通する人材は多くの場面で貢献できると考えている。

第三に、ベトナム以外の国にも目を向けたいと思うようになったことである。今回は、自分の知らなか景色や価値観に触れ、視野を広げたと同時に、自分のこれまでの生きていた環境の狭さを痛感した。今後は英語学習に更に力を入れて、より広い世界を見に行きたいと考えている。